

自分らしい言葉で表現できる児童の育成

～「のはらうた」の創作活動を通して～

1. 設定理由

昨今の子どもたちの生活を見ていると、自然に直接触れるという体験的な活動の機会が少なくなっている。自然のわずかな変化や移ろいに気づき、美しさや豊かさ、厳しさを感じるという行為は、人生を豊かにしてくれるものである。詩を書く活動は、自然の美しさや豊かさ、厳しさに感動する心を育てることにもつながると考える。そこで、本単元では風景や生き物の性格・暮らしぶりを想像し、「のはらうた」の形で書く学習を行う。

研究テーマにある「自分らしい言葉」とは、景色や動植物を表現する際に、友達には思いつかない言葉、自分しか使わないとおきの言葉とした。「のはらうた」を書く活動を通して、詩の特性を自分で読み味わっていけるようにするとともに、詩の書き方（作品の設定、視点、表現技法、登場人物の変化、主題）を習得しながら活用できる児童を育てたいと考え、本テーマを設定した。

2. 研究仮説

【仮説1】工藤直子の「のはらうた」の作品に繰り返し触れることで、詩の書きぶりを自分の詩に生かすことができるだろう。

【仮説2】作者独特の表現や見方を友達との交流で学び合い、その経験を生かせば、自分らしい言葉で表現できるようになるだろう。

3. 研究内容

- ① 詩のインプット（習得）
- ② 詩の創作 単元名 清水っ子「のはらうた」をつくらう

4. 結論

○交流を通して自分らしい言葉について意見を述べ合ったことで、詩の中に自分らしさをもっとだせないだろうか、と1つ1つの言葉に着目し、工夫を凝らして詩を作ることができた。

○自分らしい言葉を考える習慣が身に付いたので、詩の創作だけでなく作文を書いたり感想を述べたりするときに、もっとふさわしい表現はないか、工夫できることはないか、など言葉の1つ1つに着目して推敲するようになった。

I 研究テーマ

自分らしい言葉で表現できる児童の育成
～「のはらうた」の創作活動を通して～

II テーマ設定の理由

詩の読み方には大きく3つあると考える。1つ目は作者独特の表現や見方・考え方のとらえ方である。詩人は普通では思い至らない表現やものの見方・考え方で、詩的な表現を生み出す。詩の中にあるキラリと輝く作者独特の表現や見方を発見することは、重要な詩の味わい方である。2つ目は、表現技法のとらえ方である。繰り返し、対比、擬声語・擬態語、会話文など、表現技法に目を向けながら、その効果を味わう。3つ目は、主題のとらえ方である。表現技法や独特な表現に込めた作者の意図に目を向けて、作者が詩に込めたメッセージをとらえられることが望ましい。

昨今の子どもたちの生活を見ていると、自然に直接触れるという体験的な活動の機会が少なくなっている。自然のわずかな変化や移ろいに気づき、美しさや豊かさ、厳しさを感じるという行為は、人生を豊かにしてくれるものである。詩を書く活動は、自然の美しさや豊かさ、厳しさに感動する心を育てることにもつながると考える。そこで、本単元では主人公となる、風景や生き物の性格・暮らしぶりを想像し、その興味・関心をもとに、何を主人公にし、その主人公らしさをどのように表すかを「のはらうた」の形で書く学習を設定した。工藤直子の「のはらうた」を味わうことの良さとして、上記の詩の読み方、1つ目の「作者独特の表現や見方・考え方のとらえ方」が色濃く表れていることが挙げられる。子どもたちは、何気ない風景や動植物などに対して、「当たり前」の光景として普段は気にすることも少ないだろう。作者の工藤直子独特の自然に対しての見方・考え方は子どもたちにとって新鮮なものである。虫や動物や自然たちにも、名前があつて心があつて伝えたいことがあるのだと感じ、一生懸命そこで生活している小さな命の輝きを気づかせてくれる。

本テーマで示した自分らしい言葉とは、景色や動植物を表現する際に、友達には思いつかない言葉、自分しか使わないとおきの言葉とした。例えば、ゴーヤを見たときに、ごつごつしている、ぼつぼつがある、というのは多くの児童が持つ感想である。それを、怒った顔と表現した児童は独特な見方をすることができているのではないだろうか。そのような独特な見方から表現できた言葉を自分らしい言葉とした。

優れた詩は、読者の心を豊かにしてくれる。言葉のリズムが楽しかったり、感動させられたり、新しいものの見方・考え方に気づかせてくれたりする。「のはらうた」を書く活動を通して、このような詩の特性を自分で読み味わっていけるようにするとともに、詩の書き方（作品の設定、視点、表現技法、登場人物の変化、主題）を習得しながら活用できる児童を育てたいと考え、本テーマを設定した。

III 研究の目標

- ・自分らしい言葉で表現するための学習方法を探る。

IV 研究の実際

1 研究の仮説

【仮説1】工藤直子の「のはらうた」の作品に繰り返し触れることで、詩の書きぶりを自分の詩に生かすことができるだろう。

【仮説2】作者独特の表現や見方を友達との交流で学び合い、その経験を生かせば、自分らしい言葉で表現できるようになるだろう。

2 研究の内容・方法

(1) 研究の内容

①詩のインプット ②詩の創作（検証授業）

(2) 研究の方法

学習活動	学習内容
①詩のインプット（習得）	朝学習や空き時間を使い、様々な詩の視写や音読を行う。また、「のはらうた」に親しむため、主人公を伏せて本文を読み、主人公を当てるという「のはらうた」クイズを行う。
②詩の創作（検証授業） 単元名 清水つ子 「のはらうた」をつくろう	清水谷公園を散策し、風景や動植物の性格・暮らしぶりを想像する。その興味・関心をもとに、何を主人公にし、その主人公らしさをどのように表すかを「のはらうた」に書く学習を行う。友達と交流をし、構成や表現のしかたについて意見を述べ合い、推敲をして作品を完成させる。春夏秋冬の詩を詩集にまとめる。

3 研究の実践と考察

A児…努力家であり、何に対しても一生懸命取り組むが、初めて学ぶことに戸惑い、固まってしまうこともある。詩の創作活動に初めて取り組んだときには、物語文のような構成で作品を完成させた。

(1) 詩のインプット

学習活動と内容
<ul style="list-style-type: none"> ・「のはらうた」の音読や暗唱、視写から始まり、様々な詩に親しむ。 （まどみちお、北原白秋、金子みすず他、市原市教委の言の葉音読・朗読集など） ・朝学習や空き時間を使って、年間を通して日常的に取り組む。 ・「のはらうた」クイズは主人公を伏せ、本文を音読・動作化して主人公当てをする。
児童の様子
<ul style="list-style-type: none"> ・「のはらうた」に登場する風景や動植物の多さに親しみながら読んでいた。 ・休み時間に、友達同士で「のはらうた」クイズを出し合っていた。 ・何度も読むうちに、各々、好きな詩ができて、詩集を購入する児童もいた。
<p>A児…音読や暗唱、視写には楽しんで取り組んでいた。初めての詩の作品は、リズムに乏しい、物語調の作品になってしまったが【資料3】、繰り返し詩に親しむことで、表現の仕方を習得・活用することができるようになってきた。</p>

考察

- ・詩の音読や暗唱，視写を繰り返したことで，「詩の表現そのもの」をつかむことができた。
- ・「のはらうた」クイズを楽しんで行い，詩の設定（性別・年齢・特徴・性格）などに着目することができた。

(2) 検証授業 単元名 清水っ子「のはらうた」をつくろう

①単元について

本単元は，詩を通して，自然や美しいものを書く言語活動である。「のはらうた」に出てくる作者は様々である。「かぜ」「いけ」「すみれ」「かまきり」「ふな」「ふくろう」などたくさんの自然を主人公に見立てて書く詩である。風景や動植物の視線になりきり，想像力を働かせることが不可欠である。何も制約がないところで詩を創作するというのは児童にとって非常に難しいことである。しかし，野原の風景，生き物を思い浮かべ，主人公を決め，そのイメージをもとに自分が感じた主人公像を詩に書くという作業は取り組みやすいものであるだろう。

単元の流れとして，まず学校の隣にある清水谷公園を散策し，「のはら」の地図に春夏秋冬の「のはら」の仲間や様子を書き足していく【資料2】。次に，主人公を選んで詩を書いた後，友達同士で読み合い交流し，推敲する。最後に，学級で発表会を行い，感想を発表する。交流し，友達の作品に触れることで，くりかえしのあるものや，擬声語・擬態語・比喩を用いるものなど様々な詩の形を知り，自分で詩をつくる際にそれらの技法を使ってみようという意欲を持たせたい。創作活動は7月から始めた。まず夏の詩を書き，秋，冬，春という順番で行った。創作活動の開始を夏と設定した理由として，夏は子供たちが外で活動する機会が多いことと，自然の変化が大きく，子供たちも変化に気づきやすいことから，観察・想像しやすいと考えたからである。春から夏にかけては詩のインプットに徹し，夏にアウトプットを始めることにした。秋の詩から継続して指導したのは，「自分らしい言葉」を入れることである。それを入れることで，表現に幅を持たせようとした。また，「のはらうた」クイズのヒントも加えるようにした。主人公の特徴を表すため，主人公の名前を伏せても主人公を予想できるような表現がクイズのヒントである。自然は豊かで，それを自分なりに詩に表すことは楽しいと思えるような活動にしていきたいと考えた。

②単元の目標と評価規準

	国語への 関心・意欲・態度	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
目標	・身近なこと，想像したことなどを基に，詩を書くとしている。【B書くこと(2)ア】	・書いたものを発表し合い，構成や言葉の表現のしかたについて意見を述べ合うことができる。【B書くこと(2)オカ】	・言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。【伝国(2)ア】

評価 規準	・身近なことや、これまでの経験をもとに、詩に書きたいことを決め、自分の思いを膨らませて書こうとしている。	・詩の題材の中から自分の気持ちを表現するのにふさわしい場面や情景を選んで描写し、詩に書き表している。	・詩の特徴を考え、作品に表している。 ・自分らしい言葉を考え、詩に書き表している。
----------	--	--	--

③単元計画と実際の授業（全21時間）

次	時	学習活動と内容	ねらい	指導・支援（○）と評価（◎）
一	1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・「のはらうた」とはどんなものか知り、今後の見通しを持たせる。 ・「のはらうた」の音読や視写・クイズをして、親しむ。 ・リライト詩を書く。 【資料1】 	<ul style="list-style-type: none"> ・何かになりきった詩という特徴を捉える。 ・活動の見通しを持たせる。 ・「のはらうた」に興味関心を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一年間を通して季節ごとの「のはらうた」をつくるという意識を持たせる。 ○4年生の終わりに、「のはらうた」をまとめた詩集をつくることを知らせる。 ○夏休みに小学生向けの詩の本を2冊読ませる。 ○様々な形の詩を読ませる。 ◎「のはらうた」の特徴をつかんでいる。（ノート）【知識・理解・技能】
児童の様子				
<ul style="list-style-type: none"> ・風景や生き物になりきるという身近な題材であり、文体も柔らかく親しみやすいものが多いため興味を持って読んでいた。 ・「おれはかまきり かまきりりゅうじ」の作品を元に、設定（性別・年齢・特徴・性格）を変えたリライト詩を書くことで創作活動に取り組むきっかけをつくることのできた。 				
A児…「のはらうた」が風景や動植物になりきって書く詩であることを掴んでいた。詩のイメージに対しては、繰り返しがある短い文章、と答えていた。リライト詩では、文が切れるところでも行を意識せずに、ノートの下までつなげて書いた。【資料3】				
考察				
<ul style="list-style-type: none"> ・「のはらうた」クイズは楽しみながら詩のリズムや雰囲気、特徴を掴むのに良い方法であった。 ・いきなり自由に書くのではなく、リライト詩を書くことで、主人公の設定を考えてから本文を考えていくという順番を理解することができた。 				
二	3 4	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の野原の生き物を探す。【資料4】 ・夏の「のはらうた」を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心のある作者を見つける。 ・自由に考えて詩を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○俳句の季語もヒントになることを知らせる。 ○主人公の特徴を捉えるため、本で生態などについて調べる。 ◎興味のある自然について特徴を捉えている。（ノート）【関心・意欲・態度】 ○自分の考えで作品を完成させる。 ◎「のはらうた」の形で詩を書いている。（作品）【知識・理解・技能】

児童の様子				
<ul style="list-style-type: none"> ・夏といえばどんな自然があるか、まずは考えつくものを多数あげていき、その中から興味のあるものを選択していった。 ・図書室を利用し、その風景や生き物について資料を読んだ。 				
A児…夏の自然として、朝顔、蛍、海に興味を持った。自分が知っていること以外にも図鑑などを使って特徴をまとめることができた。				
考察				
<ul style="list-style-type: none"> ・書き始める前に、主人公について調べたことで、主人公の特徴が表れた内容を詩に表すことができた。 				
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の「のはらうた」の発表会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・詩を読み合い、言葉の選び方や表現の仕方に着目させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○工夫した点などを記した紹介文を書く。 ◎書いた詩を読み合い、作品の良さや感想を伝えている。 (発言・感想用紙) [書く能力]
児童の様子				
<ul style="list-style-type: none"> ・自分らしい言葉やクイズのヒントを入れることができた児童もいた。 ・友達の作品を読み、「リズムがいい」「繰り返しがあるね」などコメントをしていた。 ・自然になりきって作品をつくることができた。【資料5】 				
A児…最終的に朝顔を主人公に選び、「朝顔は朝しか咲かず、すぐ枯れてしまうので早く来年になってまた咲きたい」という気持ちを詩に表していた。【資料3】				
考察				
<ul style="list-style-type: none"> ・付箋に友達からのコメントを書いてもらったことで、それを読んで喜んでた。 ・他の作品に触れ、「次は何を主人公にしよう」「もっとリズムに気をつけたい」と意欲が表れていた。 ・初めて詩を作ったため、意見を交流し推敲するのは難しいと感じたので、発表することに重きをき、完成した作品を読み合った。だが、次回の推敲段階での交流につながる活動になった。 				
三	6 7 課外	<ul style="list-style-type: none"> ・清水谷公園で、秋の自然を探す。 ・風景や生きものを「のはらうた」の地図に書き表す。 ・教師のモデル文を示す。【資料7】 ・登場人物を2人出すよう指定し、書き出しもそろえる。 ・「のはらうた」をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・秋の自然探しで、詩に書きたい主人公像を見つけさせる。 ・全員が自由に書き足していく。 ・詩の中に、自分の感じたことを書き表せるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○公園を散策し、秋の野原を感じさせる。 ○教室に野原の大きな絵を用意し、野原の仲間や様子を書き足すようにする。 ◎興味のある自然について特徴を捉えている。(発言・ワークシート) [関心・意欲・態度] ○風景や生きものについて、細かな違いでも書き足していくようにする。 ○どの言葉を使うのが良いか、どちらの表現が良いかといった視点を持たせる。 ◎登場人物の対話を入れて「のはらうた」を書いている。(作品) [知識・理解・技能]

児童の様子			
<ul style="list-style-type: none"> ・前回の夏の「のはらうた」を作ったことで流れがわかり、スムーズに活動に取り組んだ。 ・表現の幅を広げるため、ルールを示した【資料6】。物語のような書き方になった児童もおり、詩について振り返りをした。 			
A児…対話を意識したので物語文の書き方になってしまった。それを伝えると、繰り返しやリズムに乏しいことに自ら気づき、一文一文を短く直すことができた。			
考察			
<ul style="list-style-type: none"> ・詩について振り返ったことで、改めて詩の特徴を学ぶ機会となった。繰り返しやリズムを増やそうとすることができた。【資料8】 			
8 9	<ul style="list-style-type: none"> ・作った「のはらうた」を交流し、完成させる。【資料9】 ・「のはらうた」の発表会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書いた詩を児童で交流しながら、推敲させる。 ・詩を読み合い、言葉の選び方や表現の仕方に着目させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の迷っている部分などを交流の際に相談するようにする。 ○ワークシートを使用する。【資料10】 ○最後は自分の考えで作品を完成させる。 ○学級全員の作品を読むようにする。 ◎表現の仕方や言葉の選び方に着目しながら、よさや感想を伝えている。(ワークシート) [書く能力]
児童の様子			
<ul style="list-style-type: none"> ・清書をする前に初めて、交流し推敲する時間を設けたことで、友達の意見を聞き、よりよい表現や詩の構成を探ることができた。【資料11】 ・「のはらうた」で初めての交流活動であったが、話題が本題から逸れることなく、表現の仕方や構成などについて、意見することができた児童が多かった。 			
A児…「あそぼう」という言葉を工夫したいと考え交流に臨んだ。交流の結果、「いっしょにあそぼう」という表現に変えることができた。【資料3】			
考察			
<ul style="list-style-type: none"> ・交流し、推敲の時間を作ったことは自分にとってより納得の出来映えになることにつながった。 			
10	<ul style="list-style-type: none"> ・秋の「のはらうた」をつくる。 ・自分らしい言葉を入れるようにする。 ・「のはらうた」クイズがだせるよう、ヒントを入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感じたことを書き表せるようにする。 ・自分らしい言葉を思考するヒントとして、他の言葉に「置き換え」る方法を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○交流前として、どの言葉を使うのが良いか、どちらの表現が良いかといった視点を持たせる。 ○自分らしい言葉を1つは入れるようにする。 ◎自分らしい言葉を使って秋の「のはらうた」を書いている。(作品) [知識・理解・技能]
児童の様子			
<ul style="list-style-type: none"> ・自分らしい言葉を取り入れようと熟考していた。 ・クイズのヒントとして主人公を表現するために、言葉の選び方に工夫をこらしていた。 			

A児…秋の紅葉を表現するために、「まえはきがみどり いまはオレンジ」「まえはあつかった いまはさむい」と対比と繰り返しを使っていた。また、主人公である子犬を「しっぽをふつて のはらをはしりまわりながら」という特徴を掴んだ表現で書くことができた。【資料3】

考察

- ・自分らしい言葉を書いたことで、感じた自然をよく考えて詩に表すことができた。また、作品により愛着を持つことができた。
- ・クイズのヒントを入れたので、主人公の特徴が表れている作品を書くことができた。

11 12	<ul style="list-style-type: none"> ・作った「のはらうた」を交流し、完成させる。 ・秋の「のはらうた」の発表会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書いた詩を児童で交流しながら、推敲させる。 ・詩を読み合い、言葉の選び方や表現の仕方に着目させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の迷っている部分などを交流の際に相談するようにする。 ○ワークシートを使って交流する。 ○最後は自分の考えで作品を完成させる。 ○学級全員の作品を読むようにする。 ◎自分らしい言葉とクイズのヒントに着目しながら、よさや感想を伝えている。(発言・ワークシート) [書く能力]
----------	--	---	---

児童の様子

- ・自分らしい言葉に着目し、よく話し合うことができていた。【資料12】
- ・クイズにも取り組むことができた。
- ・友達の話聞き納得のいく形に変えることができ、満足そうにしていた。【資料14】

A児…季節の変わり方について友達と意見を交換することができた。いろいろな意見を出してくれたのがうれしかった、と振り返った。【資料13】

考察

- ・事前に、交流で相談する部分を考えてから臨んだことで、その点にしぼって話し合うことができた。
- ・2回目の交流で、前回よりも、友達の作品に寄り添い、表現について一生懸命考え、自分らしい言葉を伝えることができていた。

四 13 14	<ul style="list-style-type: none"> ・清水谷公園で、冬の自然を探す。 ・冬の「のはらうた」をつくる。 ・清水谷公園で発見した自然をもとにかけようにする。 ・自分らしい言葉を入れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・冬の自然探で、詩に書きたい主人公を見つけさせる。 ・詩の中に、自分の感じたことを書き表せるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○公園を散策し、冬の野原を感じさせる。 ◎興味のある自然について特徴を捉えている。(発言・ワークシート) [関心・意欲・態度] ○自分らしい言葉とクイズのヒントを工夫するようにする。 ◎自分らしい言葉を使って、清水谷公園の冬の「のはらうた」を書いている。(作品) [知識・理解・技能]
---------------	--	---	---

児童の様子

- ・清水谷公園で発見した自然をもとに詩を書けるよう、意欲的に公園を散策していた。【資料15】
- ・冬であるため、自然がなかなか発見できず、想像から詩をつくる児童もいた。

A児…清水谷公園の冬探しでは、どんぐりを見つけ、ナラの木に冬芽がついていることを発見し、詩を書いた。また、発見はできなかったが想像で葉の下で冬眠するてんとう虫の詩も書いた。最後までどちらの詩を選ぶか迷っていたが、てんとう虫の詩にした。				
考察				
<ul style="list-style-type: none"> ・秋の「のはらうた」での、自分らしい言葉とクイズのヒントを入れることはそのまま残した。取り組みに慣れていたので、活動がスムーズであった。 ・詩の表現技法の幅が広がり、連を意識したり、5・7・5のように言葉の数を揃えたりと新しいことに挑戦していた。【資料16】 				
四	15 16	<ul style="list-style-type: none"> ・作った「のはらうた」を交流し、完成させる。 ・冬の「のはらうた」の発表会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書いた詩を児童で交流しながら、推敲させる。 ・詩を読み合い、言葉の選び方や表現の仕方に着目させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の迷っている部分などを交流の際に相談するようにする。 ○最後は自分の考えで作品を完成させる。 ○学級全員の作品を読むようにする。 ◎主人公像に着目しながら、よさや感想を伝えている。 (発言・ワークシート) [書く能力]
児童の様子				
<ul style="list-style-type: none"> ・交流の時間では、話題から逸れないようお互いの意見を活発に出し合っていた。 ・清水谷公園の冬で詩を書けた児童は、「よく見ているね」と視点の豊かさを感心されていた。 				
A児…自分が思いつかないことを友達が言ってくれた、今まででいちばん自分らしい言葉を入れることができた、と振り返っていた。【資料3】				
考察				
<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みの流れを掴み、慣れたことで、滞りなく活動は進むことができた。 ・清水谷公園の冬で書いたので、より身近な主人公像を設定し、身の回りの自然をよく観察・想像することができた。 				
五	17 18	<ul style="list-style-type: none"> ・清水谷公園で、春の野原の生き物を探す。 ・春の「のはらうた」をつくる。 ・表現技法の確認をする。【資料17】 	<ul style="list-style-type: none"> ・春の自然探して、詩に書きたい主人公像を見つけさせる。 ・詩の中に、自分の感じたことを書き表せるようにする。 ・表現技法について確認をし、表現の幅を広げられるようにする。 ・年間を通した最後の作品づくりなので、学んだ技法や語彙を積極的に使うよう伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○公園を散策し、春の野原を感じさせる。 ◎興味のある自然について特徴を捉えている。 (発言・ワークシート) [関心・意欲・態度] <ul style="list-style-type: none"> ○自分の思いのこもった言葉を1つは入れるようにする。 ◎自分らしい言葉と表現技法を取り入れて春の「のはらうた」を書いている。(作品) [知識・理解・技能]

児童の様子				
<ul style="list-style-type: none"> ・春の自然は取り組みやすいようで、次々と作品を創作した児童が多かった。 ・1年間取り組んだ「のはらうた」の最後の作品なので、意欲を持って臨んでいた。 ・表現技法を確認し、今までやったことのない表現に挑戦しようという意欲が見られた。 				
A児…連、連のまとまりの繰り返し、比喩、余韻を使って作品を完成させた。創作活動を通して学んだことが存分に取り入れられた詩であった。【資料3】				
考察				
<ul style="list-style-type: none"> ・詩の表現技法を一通り示し、どれかを使って作品を完成させよう、としたので技法としても優れた作品もでてきた。【資料18】 ・1年間の集大成ということで、意欲を持って臨んだので、今までで一番良い作品だった、という児童が多かったようである。 				
五	19 20	<ul style="list-style-type: none"> ・作った「のはらうた」を交流し、完成させる。 ・春の「のはらうた」の発表会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書いた詩を児童で交流しながら、推敲させる。 ・詩を読み合い、言葉の選び方や表現の仕方に着目させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品の工夫した点をたくさん見つけさせる。 ○最後は自分の考えで作品を完成させる。 ○学級全員の作品を読むようにする。 ◎表現技法や構成に着目しながら、よさや感想を伝えている。 (発言・ワークシート)〔書く能力〕
児童の様子				
<ul style="list-style-type: none"> ・互いの作品を称賛しあっていた。 ・納得のいく作品ができた児童が多く、交流で自分の考えを言えた児童が多かった。 				
A児…今までで一番いい作品ができた、いい意見がたくさんでた、と振り返った。				
考察				
<ul style="list-style-type: none"> ・今までの約束に加え、詩の技法も取り入れたので、1年間の集大成と呼べる作品が完成させることができた。 				
	21	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間を通して作った「のはらうた」詩集をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や友達の仕事の変容を感じられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1年間の頑張りを友達同士で認め合うようにする。
児童の様子				
<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちのお気に入りの作品を見ながら、1年間の歩みを振り返っていた。 ・最後に作った作品ということで春の詩を選んだ児童が多かったが、春夏秋冬それぞれの作品が並び、楽しそうに読んでいた。 				
A児…夏から比べてだんだんと作れるようになってきたことを実感していた。				
考察				
<ul style="list-style-type: none"> ・最後にまとめの詩集をつくったことで、自分たちが成長したことを感じる事ができた。 				

V 成果と課題

1 成果

(1) 年間を通して

- ・自分らしい言葉を考える習慣が身に付いたので、詩の創作だけでなく作文を書いたり感想を述べたりするときに、もっとふさわしい表現はないか、工夫できることはないか、など言葉の1つ1つに着目して推敲するようになった。
- ・詩という表現方法についてだんだんと理解し、詩の読み方を身に着けることができた児童が多かった。

(2) 詩のインプット（習得）

- ・様々な形の詩を音読・暗唱・視写したことで、詩の表現そのものが頭に入り、習得・活用することができるようになった。
- ・工藤直子の「のはらうた」に繰り返し触れたことで、主人公となる自然の多様さ、表現の自由さに気づくことができた。

(3) 清水っ子「のはらうた」をつくろう

- ・クイズのヒントを取り入れて創作したことで、自然、主人公像について深く観察・想像して作品を完成させることができた。また、身の回りの自然を注視することにつながった。
- ・交流の場面を設定したことで、友達から助言をもらい、より納得のいく作品作りをすることができた。また、友達の作品に触れ、互いに表現や作品の解釈を考えあうことで新しい発想が生まれることもあった。
- ・交流を通して自分らしい言葉について意見を述べ合ったことで、詩の中に自分らしさをもっとだせないだろうか、と1つ1つの言葉に着目し、工夫を凝らして詩を作ることができた。

2 課題

- ・お気に入りの主人公が見つかって、詩の形にすることが困難で、なかなか筆が進まない児童もいた。授業中での個別の指導を計画的に行っていく必要があると感じた。

資料

【資料1】リライト詩—①教師のモデル文

性別 メス
 年 十代
 性格 かっぱつ

あたしはかまきり

あーあつーいー
 じめんはかせとおしがわるいの
 のはらでいちばんたかい
 クヌギじいさんのあたままでいじつか
 それ、いいかも

あーあつーいー
 ひざしシリシリ
 のどがカラカラ
 とるけてしまいうつ
 のはらのそとには
 「しい」まで
 おあじすじやらがめめうって
 とっせなり
 とるけてしまつて
 ながれてしまいたい
 「しい」まで
 それも、いいかも

【資料1】リライト詩—②作品

おれはかまきり
 性別 オス
 年 十代
 どんな性格か
 しゃかりものの勉強家

ぼくはかまきり かまきりさん
 ほうはマラスいぼんのうんまつか
 テストいつも必点です
 ぼくはえんどっけしむ

あーあつーいー
 ぼくはまげにちんちんうぼんかまきり
 ミんどのテスト
 ンつかくちんちんか
 はーりますよ
 これからちんちんうぼんかまきり
 まうていかります

おれはかまきり
 性別 メス
 年 十代
 どんな性格か
 しゃかりものの勉強家

あたしはじみながかまきり
 まいにちかこつ
 いやな
 どんな性格か
 しゃかりものの勉強家
 対照的ですね。

・最初に主人公像を設定したうえで、詩を書いている。

【資料3】A児の1年間の作品

リライト詩

わるぞ あしがいたい ふうきりやうい
 これから大きいコートでボールをついて
 しあいをするのにあい手は 木林の生き物
 チームだ 大きい生き物が出てくるかも
 でも チームのキズだから せたいに
 かつやくしない ニュートもきめないと
 任けてしまおう
 あしなんか どうでもいい
 方が大切だ
 わるぞ！
 一行二行めいせよう

・ノートの下まで文を続けてしま
 い、物語文のようになっている。
 ・バスケットボールを「大きいコ
 ートでボールをついてしあいを
 する」と表している。

夏

むかしのこと アサガオゆうた
 もう むかしのこと
 いまは もうたね
 きれいだ たはなに
 もどりたいたはなに
 でも むかしのことだから
 でも たねをとてくれたら
 また らいねんそぎてくれるかも
 そしたら もういっかい
 はなになれる
 はやくらいねんに
 ならないかな

・リライト詩と比べ、行を変
 えることができている。
 ・アサガオになりきって書
 くことができた。

作口について
 アサガオは朝しかいていな
 く、すぐがれてたねになそ
 いくので たねになつて、ぼや
 く来平にもう一回てきたい
 と思っている 様子をうたに
 しました。

エ夫したとこころ
 言葉に少しくり返し
 を入れた。
 自分がアサガオになりきって
 書いた

秋-①

でも これがいいや
じぶんは じぶん
これからがんばる
これでもいいから

これでもいい りすおみか
ひとりであっていたら
かぜ ひるかさんが
「いっしょにあそぼう」
といた
「いいよ」
かぜは いいな
すきなことができて

- ・交流したことで納得する作品を作ることができた。
- ・自分らしい言葉として「これでもいいから」という表現を書いた。

交流して
いっしょにあそぼうを話した。
でもあそぼうだけだと
ちやうど気にならなかった。
「いっしょにあそぼう」に
自分の思いが
伝わります。

秋-②

かわった こいぬなな
なにか かわった
でも わからない
まえは きかみどりいう
アモ いまはオレンジいう
なにかかわたかわらない
まえは あつかたのに
いまは さむくなってきた
わたしは なにかかわたか
しほをふって
のはらをはしりまわりながら
かんがえる

- ・単語のみの繰り返しでなく連としての繰り返し、夏と秋の対句法、子犬という言葉を使わずにクイズのヒントを入れている。
- ・いろいろな意見を出してくれてうれしかった、思っていなかったことを発言してくれた、と振り返っている。

交流して
自分の思いが伝わったことを友達が発言してくれていい詩ができました。
交流して、たぐいに
意見が出せました。

2. エ夫したよ
くり返し文を入れた

この作品はこいぬのはらをはしりまわっているような様子を詩にしました。

冬

いまここにいら
 みんな…
 そして いつも いいきぶん
 いまここにいら
 わたし いまおちばのしたに
 いる！
 そしてなかまといっしょに
 このねもとやほのしたであゆませす！
 テントウムシみか

この詩は、テントウムシが冬になつて
 なかまといっしょにどうみんしている
 ところであつた。みんなといっしょに
 エ夫したと…
 クイズのヒントを入れてわかりやすい詩に
 した。自分らしい言葉を入れてオリジナル
 の詩にした。
 ・交流して
 ・交流してより良い作品ができた
 ・自分が思いつかなかったことを友達か
 教えてくれて良い作品になりました

・清水谷公園の冬探しでは、どんぐり、ナラの木の冬
 芽を発見し、詩を書いた。想像で葉の下で冬眠する
 てんとう虫の詩を書き、最後までどちらの詩を選ぶ
 か迷っていたが、てんとう虫の詩にした。
 ・自分らしい言葉を入れて、オリジナルの詩ができて
 いる。

春

はるになって…
 わたし
 はるになって…
 はるになって わたし
 ナなまから ほうせきのような
 キレイなはねをつけて
 りんぱなおとなになります
 はるになって わたし
 おひさまのような
 ツツシのみつを
 なかいストローで
 のみます

・夏→秋→冬→春と最後の作品に
 なり、連、連のまとまりの繰り返
 し、比喩、省略法を使って完成さ
 せることができています。
 ・今までで一番いい作品ができた、
 と振り返っている。

しょうかい文
 この詩は、アゲハチョウが春になつて
 からしてみたいことをかいている
 詩です
 エ夫したところ
 ・くり返しを入れた
 ・クイズのヒントを入れた
 ・……を入れた
 ・交流して
 ・今までで一番良い作品ができた
 ・相談してどうもんに答えてくれ
 て良い詩になった

【資料4】夏の自然探し

・詩をつくる順番を示したことで、自ら進んで活動することができた。
 ・夏の自然で思いつくものを挙げ、その中から興味のある主人公を選択して図書室で詳しく特徴を調べた。

① 夏の作者としての 動物や植物	② 夏のすがたをイメージする 設定を決める	③ 性別 年性格 など 作者のところがわかる 本で調べたりする	④ 実際に書いてみる よく見なおして ほんまののはうたをつくる
---------------------	--------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------

① ひまわり 風 (風) ほし (星) 入道雲 (雲) うめくま (雲) ありくもい (雲) のしじり (雲) のえ (雲) のふる (雲)

② メモ
 風 (風) のじゅうけん (風)
 太平洋 (海) 南シナ海 (海) 舞臺 (海)
 風が吹く (海) のしじり (海) 上 (海)
 ハリケーン (海)
 大西洋カリブ海 (海) 東太平洋 (海) では (海)
 サイクロン (海)
 南半球 (海) やインド洋 (海) では (海)

【資料5】夏の作品

おはよう
くさばいした
さうめん おこして
じゅんじゅん たてたら
さかなばい おしえて
さてないか かくにん
なみをとて
ごまとうぞ

さいらまの あせ
うみすつぱ

エ夫 したところ
うみは まいどち 朝こん
ふんこと ながいの ききかた
をエ夫した。

。作品について
この作品は、自分か
きいたこと、たまたま、
うみは、こえな、こと
をすめるのかなと
いう疑問符をつけて
きいたこと、きいたこと、
書きなぬ。

・選んだ自然になりきって書くことができている。

ピカッ
ピカッとききこえて
ピカッとあらわる
ほしかげんで
なげれる
ピカッピカッピカッ

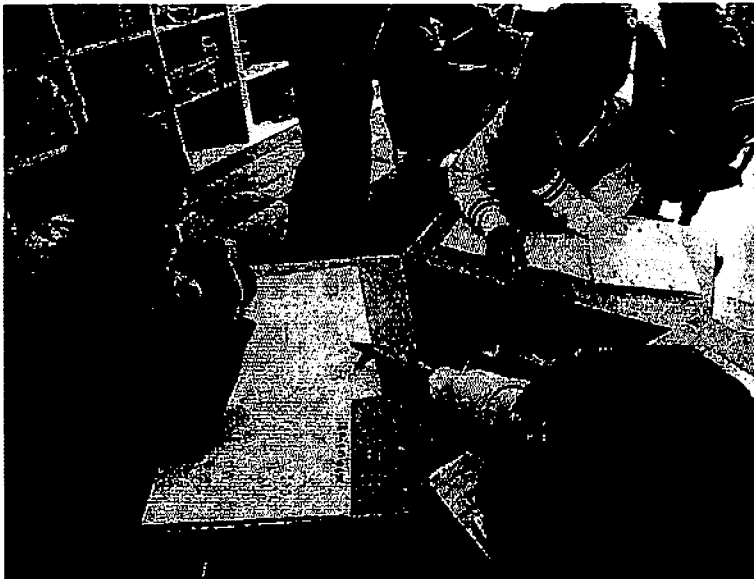
オラ
ピカッとききこえて
ピカッとあらわる
ほしかげんで
なげれる
ピカッピカッピカッ

ほしかげん

・「ピカッ」という擬態語の繰り返しがある。

○エ夫したと、マズ、
くりかえしを入れました
。作品について
きんせいがピカッときき
ピカッとききこえてあらわる
ほしが、
天の川にながされたこと、つたに
ました。

【資料9】 交流の様子



・3人のグループになり、机を向かい合せて交流をした。

【資料10】 秋の作品Ⅰ 交流のワークシート

<p>3</p> <p>付箋に感想を書き、友達からの感想を貼る。</p>	<p>1</p> <p>事前に作品を書き、自分らしい言葉に線を引く。</p>
<p>4</p> <p>振り返り</p>	<p>2</p> <p>迷っている部分や相談したいこと・話したいことを書く。</p>

○ 交流をして話したこと

○ 相談したいこと

○ ふり返り

- ・ 交流をして、よりよい作品になった
- ・ 自分の意見を述べる事ができた

・ 交流はワークシートを利用した。まず、事前に①に作品を書く。自分らしい言葉とした部分には、線を引かせた。次に②に相談したいことを書いておく。交流は3人組で行い、初めに互いの作品を読んで、③に感想を書く。相談したいことを中心に交流をし、意見を伝え合う。最後に④に振り返りを行う。

【資料1】秋の作品I

地球一周する時のことをかいた作品です。

Q 工夫したところはさすが区の東京スカイツリーや世界一広いカスピ海をかいたことです。作者のアカトンボけんたはいつも池の上を飛んでいるけれど、初めて地球一周して、いい気持ちになったことを表しました。

○交流してどの言葉を入れればよいか話をしました。A、B、C、Dで2回目は日本のもので2回目は世界のものという理由でAとDにしました。

ウキウキしてくる詩です。

А: 2017/11 - B: 2017/11/15
C: 2017/11/15 - D: 2017/11/15

いいきもち アカトンボけんた
 ひとりでいけのつえをとんでいたら
 かぜよう二ちゃんか
 つかしたのてきまうつにいしうしがないつ
 といた
 たいよ
 「こーこーこーこーこー」
 らきうってこんはひろいんだね
 すみだくのとうきうスカイツリー
 せかいいちひろいカスピかい
 せかいをしらむかたはよくは
 ひろいことをして
 いーやもせになた

・初めて推敲段階での交流活動をした。交流に臨む前に、この部分はどのような表現かよいか、といった視点を持たせた。交流ではそのことを中心に話すようにした。初めての交流であったが、話し合いの論点をずらさず話し合うことができた。

【資料1 2】秋の作品II—交流のワークシート

いーやもせになた
 とんぐりかきかなたろう
 いまほくひどりほうち
 ほうしをめぐるとまたちいさな
 りちとがむいこやすすべかなた
 あれ、でもちいさくあるところ
 そのこあはもふるもよると
 まといしよだた
 でもほうしをかきか
 たみしなにかか
 せもほくきかたに
 じからきみかおは
 じからきまうはたよになて
 みおんちうの。

○推敲したこと
 クイズのヒントはあつらひか
 かわるひ。

自分らしい言葉とクイズのヒントは入れるようにした。

自分らしい言葉として「つきみたいに」「きょうはたいよう」「たいようのかお」とある。

友達の見えをもらい、考えて表現を変えることができています。また、友達にもたくさん意見を言えたと振り返っている。

○交流をしてみようという作品になった
 自分らしい言葉とクイズのヒントはあつらひか
 かわるひ。

○交流をしてみようという作品になった
 自分らしい言葉とクイズのヒントはあつらひか
 かわるひ。

・前回の秋の作品Iを踏まえて、秋の作品の本番として書き出しをそろえず、自由に書かせた。自分らしい言葉とクイズのヒントは入れるようにした。

・自分らしい言葉として「つきみたいに」「きょうはたいよう」「たいようのかお」とある。

・友達の見えをもらい、考えて表現を変えることができています。また、友達にもたくさん意見を言えたと振り返っている。

【資料13】A児の交流のワークシート

夏はアリスとボロボロのうさぎの
の方がいいと思う(2)50分
が自分らしいと思う

「まえは、スイカがたまたま、
でも今は、きんぎょ、うさぎ
が自分らしいと思う」

なにかかわった
でも わからない
まえは、きんぎょがみどりいろ
でも今は オレンジいろ
なにかかわったか わからない
まえは あつかったのに
いまは さむくなってきた
わたしは なにかかわったか
し、まをふって
のはら毛をはしりまわりながら
かんかえる

○ 交流をして話したこと、
おまじの変わり方と交流して話した。

○ ぶり返り
○ 交流をして、よりよい作品になった
・ 自分の意見を述べることができた

自分では何をすればいいかまよったけど
交流して、いろいろな意見を見ることができ
てうれしかったです。

「まえは あつかったのに
いまは さむくなってきた」
をもと、夏と秋へ、
どうも変わったかを、自分ごと
い言葉にしたい。

「まえは あつかったのに
いまは さむくなってきた」
をもと、夏と秋へ、
どうも変わったかを、自分ごと
い言葉にしたい。

- ・ 夏から秋への変容を、どう表せばいいか迷っている。
- ・ 友達が、A児の悩みである、夏と秋の変容について一生懸命考えてくれている。
- ・ 迷いがあったが、いろいろな意見を出してくれてうれしかったと振り返った。

【資料14】秋の作品II

- ・ 自分らしい言葉を多く入れた。
- ・ 「やま」という主人公を「さかさまにする」と落とし穴のようにみえる」と表現した。

わしはやま やまたけお
いつもいろいろな
いまもの
くうしを
かんせつ
していろ
いま
きつねと
たぬきが
けんか
している
いま
わしのまは
こうよう
していろ
わしの
こうようは
わしのまは
わしのまは
わしのまは
わしのまは

この作品は山がくうしを観察して、
様子も詩に表しました。

2. 工夫した点
さかさまにする落とし穴のまは
に見える。わしのまは、ダンスをおどり
ながらまわりおどりというところを
交流して

目取初め言葉たちをうさぎ言葉にしたかた
けど意見がでず、自分でさめました
作品の色んな所に
工夫した点が見られます。

・交流をして、表現を変えて
 ことができる。

たびのはじまりだ

このころころ

ハットン / ↑ がー

ニュー

ぼくもいこう
 まりあちていになか...
 やとおん...
 なんかげつも かけて

とんぐりのたひだう
 きょうは たびだちのひ
 とんぐりくりの



言葉を
 エ夫したね。

この作品はとんぐりの実が木から落ちて、この様子
 はに表しました
 エ夫した点
 とんぐりが木から落ちる様子、実が落ちてくる様子、
 がいも
 り交流して
 わたしは、ちやうどなただ、たなかもいろいろのことまを、このように
 おうじ、たなか、まこにして、いまだけど、おち、いまだきも、こ
 ちがうまを、等に変えた、て、あたると交流して、もうた
 びだたなにかまたちもいろいろにしました。

【資料15】 冬の自然探し

とんぐり
 水の池の中に
 大、小のとんぐりが
 落ちていた
 夏、根にあたりとんぐりの
 芽はなくなっていた

キノコ
 木についていたキノコが
 とれて、地面に落ちた
 白色だった(緑ケ)

ツバキ
 木にこのツバキ
 がこいていた
 花びらも少しおちていた
 実もあった
 低い場所にもあった
 (つばきみも)

赤い細長い実が
 あった

公園でみつけた自然

秋とのちがい

・冬の作品は、清水谷公園で見つ
 けた自然で作品を書こう、とした。
 ・自然を見つけようと意欲的に探し
 ていた。

ニヤ
 日かげには
 ニヤか下さんあた
 小さなマツボクリみたいな
 ものがあった
 とんぐりの芽
 木の根元に子葉が出て、
 とんぐり芽が、あった
 2-3こあった
 木にニヤか...
 赤い実 → 赤い実

【資料17】 詩の表現技法の資料

<p style="text-align: center;">海の風景</p> <p style="text-align: right;">堀口大學</p> <p>空のせきばんに かもめがABCを書く 海ははい色のまきばです 白波はめんようの群れであらう 船が散歩する たばこをすいながら 船が散歩する 口ぶえをふきながら</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・空のせきばん・・・隠喩 ・かもめがABCを書く・・・擬人法 ・海ははい色のまきばです・・・隠喩 ・白波はめんようの群れであらう・・・隠喩 ・「海ははい色のまきばです」と「白波はめんようの群れであらう」・・・対句法 ・船が散歩する たばこをすいながら・・・擬人法と倒置法 ・船が散歩する 口ぶえをふきながら・・・擬人法と倒置法 ・「船が散歩する たばこをすいながら」と「船が散歩する 口ぶえをふきながら」・・・対句法 ・船が散歩する・・・反復法
---	--

・夏→秋→冬→春の年間を通して最後の作品になった。最後の作品として表現技法の確認を行った。今まで使ったことのない、いろいろな技法に挑戦して、良い作品をつくらうという意欲につながった。【資料17】は1つの詩にいろいろな表現技法が入っている詩で、児童も興味を示していた。

【資料18】 児童の春の作品

<p>・擬声語の繰り返しを多用して読んでいておもしろい作品になっている。</p>	
<p>ぶんしん ホトケノザ カオリ はたけにものはらにも たくさん たくさん さいている けむけむボン けむけむボン ほらまたふえた ほんとうのぼくはどれてしょう?</p>	<p>・最後に問いかけをして、印象を強くしている。</p>

・「ひっくりかえるようにあたたかい」と比喩を用いて自分らしい言葉とした。

しんぱいだ
はるのあき
きともだ
ともだちのみんな
おきこくる
おきこみるみんなおきこる
とぼかこえをかけ
さむいもりが
ひっくりかえるように
あたたかい

はるになたらう…
うぐいすつよし
ホーホケキョ
ぼくうたう
たくさんうたう
ホーホケキョ
ぼくなく
みんまでなく
ホーホケキョ
ぼくうたう
うつくしくうたう
…
そして
はるになたら
うぐいすつよし

・「ず〜っと がっしょう」で終わり、体言止めとした。

・「やっとおわった」の繰り返しとその後に続く言葉に対句法を使っている。

あがるいはる
かうすかすなり
やっとおわった
さむいふゆ
やっとおわった
こおるはね
やっとおわった
さむしいひ
これからは
はばたくぞ
あがるいはる
あがるいはる
あがるいはる

ぼくのひみつ
つくしけんじ
ぼくはふか
ひみつをかくす
ぼくのひみつは
どこにあるかわかるか
うえはトゲトゲ
ちいさなはっぱ
にんげんには
かあいかられるぞ
くまモデルたいには
ぜったいでれない
やはりのはっぱが
ぼくのひみつ
はらすなよ。

・主人公の特徴をひみつと言い換えて、なりきることができた。

【資料19】国語科アンケートの結果（男子15名 女子13名 計28名）

質問項目	4月（学習前）		3月（学習後）	
	はい	いいえ	はい	いいえ
・国語の学習は好きですか。	15名(53%)	13名(47%)	23名(82%)	5名(18%)
・詩をつくることは好きですか。	8名(28%)	20名(72%)	25名(89%)	3名(11%)
・詩をつくることは得意ですか。	2名(7%)	26名(93%)	16名(57%)	12名(43%)
・詩を読むことは好きですか。	16名(57%)	13名(43%)	19名(67%)	9名(33%)
・工夫して文章を書いたり、詩をつくらうとしたりしていますか。	15名(53%)	13名(47%)	19名(67%)	7名(33%)

・交流を通して、学んだことやできるようになったことを書きましょう。

工夫すること、自分らしい言葉を見つけたたり考
えたりすること。

いろいろな詩をよんだり、連を作ることかできたり、詩について
いろいろしりました。

い返しをたくさんでき、リズムもよくなりました
他にも色々なテクニックがわかりました

自由な表現がたくさんできるようになり、
聞いたこととはあろが、意味を知らなかった言葉の
意味を知らう、とたくさん思いうようになった。

言葉を工夫したり自分らしい言葉をいはい
いられるようになった

自分らしい言葉を入れられるようになった。
なにかに例えることかできた。

交流をして、

- ・自分らしい言葉を入れられるようになった
- ・工夫することができた

という意見が多く上がった。